

## 第5回近畿周産期精神保健研究会 会長挨拶

第5回近畿周産期精神保健研究会を来年2月29日、3月1日に開催させていただくこととなりました。

近畿周産期精神保健研究会は、「周産期新生児医療に関わる多職種が、周産期医療における精神保健の重要性を理解し、連携・協働を図りつつ、赤ちゃんと家族が生まれ育っていく過程を支える支援の在り方を研究・実践すること」を目的としています。医師、看護師、助産師、臨床心理士、遺伝カウンセラー、ソーシャルワーカー、保健師、セラピスト、保育士といった周産期医療に関わるすべての職種が毎回200名以上参加して盛り上がりを見せています。2016年2月から毎年開催され、第1回は、和歌山医大第2外科の窪田昭男先生、第2回は、大阪発達総合医療センター副センター長の船戸正久先生、第3回は、高槻病院小児科の南宏尚先生、今年（第4回）は、和歌山医大総合周産期母子医療センター産科の南佐和子先生が会長をされました。

今回のテーマは、「多職種で考えよう 母と子と家族の心に届く支援」といたしました。初日は若年妊娠の事例について、多職種でワールドカフェを行う予定にしています。2日目は、大阪大学大学院連合小児発達学研究所の谷池雅子科長に「早産児の発達障害と療育へのアプローチ」、認定NPO法人「こどもの里」の荘保共子理事長に「地域の中で、子どもたちと家族を支える」のご講演をお願いしています。一般演題とシンポジウム「母と子と家族を支える専門職の役割～育てにくさ・関わりにくさに向き合う」も予定しています。当院がこの規模の研究会を担当することは、初めてで、行き届かない点も多いと思いますが、当院子ども虐待防止委員会メンバーと共に、多職種協働で実りある研究会にしたいと考えています。

多くの方々のご参加をお願いいたします。

第5回近畿周産期精神保健研究会会長 隅 清彰  
(石井記念愛染園附属愛染橋病院小児科部長)